



木立の家は山々を望める眺望を持った風がよく抜ける、開けた敷地に計画されました。父母子娘。それにおばあちゃん。三世代が暮らす住宅です。心地よく住まう感覚を世代を超えて共有するにはどうすればよいか。常に考えながら設計を進めました。

木立の家



暖かく、優しい手触りの紀州材
紀州杉が持つ手触りや質感はとても優しく暖かい落ち着いた空間を作ることができます。さらに強度、靱性とも通常の杉材に比べて大きく、高い耐震性を期待できるため、木立の家では構造材全てに紀州杉を使用しています。

3つの空間領域

木立の家は大きく分けて3つの空間に分かれており、1つはそばを走る道路の賑わいを受け止め、落ち着いた住空間にスイッチするための空間。もう1つは眺望や自然風など敷地の持つ魅力を感じることのできる私的な空間。そしてそれらをゆるやかに繋ぐ中間領域で構成されています。性質の違う空間を日々行き来することで、プライベートとパブリックの間にちょうどいい距離感をもたらし、豊かな生活風景をつくりだします。

建物全体バリアフリー

三世代全ての家族が安心感を持って暮らすために建物全体バリアフリーとなるよう計画されました、段差はすべて取り除かれ、廊下には手すりが備え付けてあります。



地域の花火大会を家の中で楽しめる

3mを超える高い天井を持ち、大きな気積を持つリビングは幅4m70cmの大開口を有し自然の山景や地域で行われる花火大会の景色など、敷地の持つ魅力的な眺望を生活の中に取り込むことができます。



【 ホームページ掲載用ポスターデータ 】

※ここに掲載されている全ての内容の無断転載、画像や文章等の無断複製・印刷・転用を禁じます。